

第7回新淡路地域ビジョン検討委員会 議事録

1 日 時 令和3年8月31日(火) 18:00～19:40

2 場 所 オンライン

3 出席者

委員：山本委員長、澤田副委員長、栄井委員、堤委員、森委員、横山委員、木下委員
東田委員、安居委員、原委員、木戸委員、堀内委員

(12名)

県：亀井県民局長、吉野交流渦潮室長、刃物班長、福栄

4 内 容

(1) 県民局長挨拶

8月1日より新知事の体制となった。ビジョンの方向性について本庁より知事に伺った結果、基本的にはこれまでどおりの方針で了解をいただいているので検討を進めて参りたい。

本日の委員会では骨子案について議論いただくこととなっている。スローガンの議論など限られた時間ではあるがよろしくお願ひしたい。

(2) 淡路新地域ビジョン骨子案について

【修正案に対する意見】

- ・情報通信環境については、自然環境とデジタル化を選択できるような棲み分けが出来た方が良い。「誰もが」という表現をやわらかくしてほしい。
- ・「ラストワンマイル」の意味がわかりにくい。
- ・淡路島は観光産業がメイン。観光地と自然地域の棲み分けが必要。
- ・目標4のタイトルが受け入れ側の視点となっている。例えば、「観光客や移住者と共に発展(成長)する島」とした方が多くの人を巻き込めると思う。
- ・交通基盤について、住民目線の課題は書かれているが、観光客目線の言葉を追記していただきたい。2025年には大阪関西万博がある。現在、海外の観光客の誘致については大苦戦をしている。海外だけでなく日本中からも車だけでなく公共交通を利用して訪れることが出来るように。
- ・目標5(3)で“障害者”の表記は、平仮名ではないのか。社会に適応が“出来ない”という表現は“困難”という表現のほうがいいのでは。
- ・海の課題も記載する必要があるのではないか。
- ・求人内容については1次産業、建設業、製造業も不足している認識。“偏っている”という表現を言い換えられないか。
- ・防災に係る課題としてため池のことに触れた方がいいのでは。淡路島はため池が特徴で個人の池もたくさんある。

- ・目標5（3） 一方的に社会的弱者を支えるだけでは当事者が誇りを持つことは出来ない。当事者も共に地域で活躍していかないと誇りを持つことが難しい。一緒に生きていくような表現があればいい。
- ・農業に関わる人は必要であるが、農業で生活が出来る専門的な人を増やす必要があると思っている。仕事としての農業と地域保全としての農業を区別して伝えられたらと思う。
- ・教育関係の記載がもう少し欲しい。
- ・若者の流出の理由として、高等教育の選択肢だけではなく他にも要因があるのでは。
- ・目標2の農漁業がICT、スマート化に寄っているので自給自足につながるイメージが持てない。
- ・目標2のタイトルについて、淡路島の食に関しては自分たちの分だけでなくそれ以外にもたくさん作っている。地産地消もそのとおりだが、“生み出す島”というのはどうか。
- ・ため池のことはグリーンインフラに関連して記載できるのでは。

【スローガンについて】

- ・日本がこれから起こるような課題と淡路島が捉えている課題が近いように思う。淡路島から全国に向けてわくわくするような言葉があれば。全国モデルを淡路島からという意味で、日本の縮図やはじまりの島というのはどうか。
- ・淡路島の個性をしっかりと出したほうがいい。人と自然に支えられるというようなフレーズは入れておいた方がいいだろう。自然の豊かさは日本全体が目指すべきものでもあるが、淡路島はそのアドバンテージがある場所。
- ・未来の子供たちに向けてのビジョンなのか、これから淡路を盛り上げていく観光客や移住者にとってのビジョンなのかを明確にするべき。
- ・食いっぱぐれないという意味は、「安定した収入があって生活が滞りなく営んでいる様子」と認識している。ビジョンとは、人々にとって淡路島がこうなっていったらいいというのを描いたものだと思う。現状、淡路島はある程度収入もあり、生活も営んでいるのではないかと思うと、食いっぱぐれない島を未来のスローガンにすることは厳しいのではないかと思う。
- ・スローガンを一目見て分かることが大事。食いっぱぐれにはキーワードとして「食」がある。淡路国や独立という言葉にはあまり意図を感じられない。やはり自然や食と共になど意図が大事だと思う。
- ・食いっぱぐれないというキーワードが入ることで気を引きつけられると思う。自然や環境や観光のことを入りたい気持ちはあるが、食いっぱぐれだけでも興味を持ってもらえる気がする。

- ・淡路島は自然が豊かと表現する方はたくさんいるが、自然だけなら他の地域にもある。淡路島は他の地域と違って、自然や資源を活かしている地域だと思う。単に自然が豊かだという表現よりも「自然と共存」や、「自然を活かす」という表現であれば淡路島らしいと思う。
- ・淡路島の豊かな自然は、今すごい勢いで消えてしまいそうな状況にある。30年後に向けて自然を謳っておくのはいいことだと思う。

以上

